

I 令和8年度福井大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラム概要

1. プログラム名称およびプログラム番号

福井大学医学部附属病院臨床研修Aプログラム	(No. 030331521)
〃 臨床研修Bプログラム	(No. 030331522)
〃 臨床研修Cプログラム	(No. 030331123)
〃 小児科重点プログラム	(No. 030331524)
〃 産婦人科重点プログラム	(No. 030331525)

2. プログラムの目的と特徴

プライマリ・ケアを中心に医師として必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を身に付け、患者とのコミュニケーションやチーム医療など医療人としての人格を涵養することがこの研修プログラムの目的です。

本院の卒後臨床研修は、本学附属病院が基幹型病院となり、県内外の14病院を協力型臨床研修病院として病院群を形成して研修を行います。また、地域医療や地域保健、小児科、産婦人科など本院の各診療科の研修プログラムの一部を補うため、病院、診療所、保健所、血液センターなどの臨床研修協力施設を設けています。

特徴

- 1) 重症、難治性疾患のみではなく一般の患者も経験でき、プライマリ・ケア習得に最適です。

地域への医療に力を入れており、大学病院でありながら一般的な疾患も十分経験できる市中病院の雰囲気をもった大学病院であり、研修医は2年間で、通常は市中病院で経験する common disease を中心とした疾患と、大学病院でしか経験出来ない重症・難治性の疾患の双方を経験することができます。

初期研修の最大の目的である基本的救急処置を含むプライマリ・ケアの習得に最も適しています。

- 2) 救急患者の初期対応力が身につきます。

全国的にも希なER型救急部と総合診療部が一体化した診療体制が取られており、どの科をローテーションしていても、月に4～5回程度の準夜帯と休日の日勤帯等において救急部での研修を2年間通して行います。これにより、将来どの専門分野に進んでも、当直などの際、救急患者の初期対応ができます。

ERでは24時間、救急総合診療に精通した医師が常駐して指導します。

- 3) 熱心で、質の高い指導に自信があります。

大学病院はスタッフも多く、研修医や学生を指導してきた経験も豊富で、市中病院に比べ指導力に優れています。これを生かして、common disease や見落とすと危ない疾患などをテーマとした研修医向け勉強会「コアレクチャー」を年間通して数多く実施しています。

また、一般病院では経験できない最新の治療を学ぶことができ、興味があれば基礎研究も行えます。

3. 研修プログラム

研修目標を達成するために、本院と協力型臨床研修病院の特色を生かした5種類（A・B・C・小児科重点・産婦人科重点）の研修プログラムがあります。どのプログラムかはマッチングによって決定し、B・Cプログラムのたすきがけ協力病院については、それぞれの病院の研修医受入数を超えない範囲で、研修医選考の成績順に本人の希望に応じて決めています。

Aプログラム・小児科重点プログラム・産婦人科重点プログラムは2年間福井大学病院で、B・Cプログラムは、たすきがけ方式で1年間協力型臨床研修病院（福井県立病院、福井赤十字病院、福井県済生会病院、福井総合病院、市立敦賀病院、杉田玄白記念公立小浜病院、公立丹南病院、島田市立総合医療センター、市立長浜病院、京都桂病院、京都岡本記念病院、京都第一赤十字病院、宇治徳州会病院、舞鶴共済病院）で研修を行います。

プログラム	定員	1年目	2年目
A	22名	福井大学病院	福井大学病院
B	2名	福井大学病院	協力病院
C	11名	協力病院	福井大学病院
小児科重点	2名	福井大学病院	福井大学病院
産婦人科重点	2名	福井大学病院	福井大学病院

1) 【Aプログラム】（定員22名）

2年間を福井大学病院で研修します。

2年間 福井大学病院

基本的には研修医の希望に合わせてコースが選択できるようローテーション研修を行います。将来専門としたい診療科を中心とした研修も可能です。必修科目のうち内科24週以上、救急部門12週以上は1年目に、地域医療4週以上は2年目に行います。また、必修科目の外科4週以上、小児科4週以上、産婦人科4週以上、精神科4週以上、一般外来を4週以上は1年目又は2年目に行います。選択科目は基本2年目に行います。

2) 【Bプログラム】（定員2名）

1年目を福井大学病院で、2年目を協力病院で研修します。（◇たすきがけ方式研修）

1年目 福井大学病院

2年目 協力病院

1年目の研修は本院のAプログラムに沿って行い、2年目の研修は協力病院の各研修プログラムに沿って行います。なお、たすきがけ研修病院は受入数を超えない範囲で、研修医の希望により選択できます。

3) 【Cプログラム】（定員11名）

1年目を協力病院で、2年目を福井大学病院で研修します。（◇たすきがけ方式研修）

1年目 協力病院

2年目 福井大学病院

1年目の研修は協力病院での各研修プログラムに沿って行い、2年目の研修は本院のAプログラムに沿って行います。なお、たすきがけ研修病院は受入数を超えない範囲で、研

修医の希望により選択できます。

◇たすきがけ方式研修・協力病院の研修医受入数

協力病院（たすきがけ）	Bプログラム （2年目受入数）	Cプログラム （1年目受入数）
福井県立病院	0名	2名
福井赤十字病院	2名	2名
福井県済生会病院	2名	2名
福井総合病院	2名	2名
市立敦賀病院	2名	2名
杉田玄白記念公立小浜病院	2名	2名
公立丹南病院	2名	2名
島田市立総合医療センター	0名	2名
市立長浜病院	1名	1名
京都桂病院	1名	0名
京都岡本記念病院	1名	0名
京都第一赤十字病院	1名	0名
宇治徳洲会病院	1名	0名
舞鶴共済病院	1名	0名

4）【小児科重点プログラム】（定員2名）

主に、将来、小児科医になることを希望する研修医を対象に、2年間を福井大学病院を中心に研修します。

2年間福井大学病院

5）【産婦人科重点プログラム】（定員2名）

主に、将来、産婦人科医になることを希望する研修医を対象に、2年間を福井大学病院を中心に研修します。

2年間福井大学病院

4. 協力型臨床研修病院および臨床研修協力施設

地域の協力型臨床研修病院や臨床研修施設と連携をとりながら効果的な研修を行います。これらの病院や施設には特色あるプログラムが用意されています。

1）協力型臨床研修病院（たすきがけ病院）

福井県立病院（福井市）
福井赤十字病院（福井市）
福井県済生会病院（福井市）
福井総合病院（福井市）
市立敦賀病院（敦賀市）
杉田玄白記念公立小浜病院（小浜市）
公立丹南病院（鯖江市）

島田市立総合医療センター（静岡県島田市）
 市立長浜病院（滋賀県長浜市）
 京都桂病院（京都府京都市）
 京都岡本記念病院（京都府久世郡）
 京都第一赤十字病院（京都府京都市）
 宇治徳洲会病院（京都府宇治市）
 舞鶴共済病院（京都府舞鶴市）

2) 協力型臨床研修病院

福井愛育病院（福井市：小児科、産婦人科）
 公立丹南病院（鯖江市：小児科、産婦人科、整形外科、眼科、総合診療）
 国立病院機構敦賀医療センター（敦賀市：内科、外科、小児科）
 福井勝山総合病院（勝山市：内科、外科、脳神経外科、地域医療、一般外来）
 舞鶴共済病院（京都府舞鶴市：外科、産婦人科）
 中部国際医療センター（岐阜県美濃加茂市：産婦人科）
 彦根市立病院（滋賀県彦根市：内科）
 中村病院（越前市：内科、外科、脳神経外科、泌尿器科、地域医療、一般外来）
 林病院（越前市：内科、外科、脳神経外科）
 富山大学附属病院（富山市：和漢診療科）

3) 臨床研修協力施設

施 設 名	研修分野
福井県総合福祉相談所（福井市）	精神科
国立病院機構あわら病院（あわら市）	地域医療、一般外来
穂仁会大滝病院（福井市）	地域医療、一般外来
福井厚生病院（福井市）	地域医療、一般外来
坂井市立三国病院（坂井市）	地域医療、一般外来
池端病院（越前市）	地域医療、一般外来
越前町国民健康保険織田病院（丹生郡越前町）	地域医療、一般外来
おおい町国民健康保険名田庄診療所（大飯郡おおい町）	地域医療、一般外来
高浜町国民健康保険和田診療所（大飯郡高浜町）	地域医療、一般外来
若狭高浜病院（大飯郡高浜町）	地域医療、一般外来
国民健康保険池田町診療所（今立郡池田町）	地域医療、一般外来
南越前町国民健康保険今庄診療所（南条郡南越前町）	地域医療、一般外来
オレンジホームケアクリニック（福井市）	地域医療
広瀬病院（鯖江市）	地域医療、一般外来
永平寺町立在宅訪問診療所（吉田郡永平寺町）	地域医療、一般外来
医療法人南溟会宮上病院（鹿児島県）	地域医療、一般外来
福井県赤十字血液センター（福井市）	地域保健
福井県福井健康福祉センター（福井市）	地域保健
福井県奥越健康福祉センター（大野市）	地域保健

※B・Cプログラムのたすきがけ病院の協力施設等は、各病院のプログラムに掲載している。

※医療法人南溟会 宮上病院については、Aプログラムのみ研修可能。

5. 研修内容

1) 研修科目及び研修期間

◇研修期間は2年間

◇オリエンテーション

研修はオリエンテーションから始まります。研修を円滑に実施できるよう、医療倫理、医療安全管理、院内感染対策、チーム医療、カルテの記載、保険診療、ACLSコース等、医療を行うために必要な事項を1週間かけて学びます。

◇必修科目：内科、救急部門、地域医療、外科、小児科、産婦人科、精神科、一般外来

- ・内科 2 4 週以上、救急部門 1 2 週以上、外科 4 週以上、小児科 4 週以上、産婦人科 4 週以上、精神科 4 週以上は主に 1 年目に行います。
- ・地域医療 4 週以上（在宅医療 1 週を含む）は 2 年目に行います。
- ・一般外来は総合診療部で行います。但し、地域医療と同時に研修を行うことも可能です。

◇病院で定めた必修科目：麻酔科蘇生科

◇ 選択科目：

以下の科目から臨床研修の到達目標を考慮しつつ、将来のキャリアに円滑につながるよう自由に選択します。

内科（血液・腫瘍、感染症・膠原病、脳神経、消化器、内分泌・代謝、呼吸器、腎臓、循環器）、外科（消化器、乳腺・内分泌、心臓血管、呼吸器）、泌尿器科、皮膚科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科、産科婦人科、神経科精神科、脳神経外科、麻酔科蘇生科、放射線科、救急部・総合診療部、病理診断科/病理部、緩和ケア科、地域医療（２年目のみ）、地域保健（２年目のみ）

2) 研修スケジュール

(1) 臨床研修Aプログラム

臨床研修Aプログラム（定員22名）：2年間大学病院で研修

※診療科の選択やローテーション順は各個人の希望で決定できます。

1 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	必修科目又は選択科目（※）												

2 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	一般外来（4 週） 2 年目のみ 地域医療（4 週） 2 年目のみ 必修科目又は選択科目※												

(内科 2 4 週・救急部門 1 2 週・外科 4 週・小児科 4 週・産婦人科 4 週・精神科 4 週・麻酔科 4 週) 2 年目 (一般外来 4 週・地域医療 4 週)

(例 1)

目指す診療科の基礎的診療能力を習得します。

1 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	選択科目（外科系）			内 科						救急部門			必修 科目
	1 2 週			2 4 週						1 2 週			4 週

2 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	一般 外来	地域 医療	麻酔 科	必修科目			選択科目						
	4 週	4 週	4 週	1 2 週			2 8 週						

(例 2)

内科系などを中心に基本的な診察法や診断学等を習得します。

1 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	内 科						救急部門			必修科目			
	2 4 週						1 2 週			4 週	4 週	4 週	4 週

2 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	一般 外来	地域 医療	麻酔 科	選択科目									
	4 週	4 週	4 週	4 0 週									

(a) 内科研修

内科の24週以上は、血液・腫瘍内科、感染症・膠原病内科、脳神経内科、消化器内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科から各4週以上を選択します。

(b) 救急部門研修

救急部または、麻酔科蘇生科を選択します。

但し、麻酔科蘇生科を選択した場合は、上限4週となっています。

また、救急部門の研修として、救急患者への対応を身に付けるため、研修2年間を通して、救急部医師指導のもとに救急外来にて、当直（平日の準夜帯および休日の日勤帯等）を1月4～5回程度行います。

[救急部研修]

将来、外勤先や就職先にて当直の際に大きな間違いをしないために、救急初期診療の実践訓練を主体とします。ERにおける全科の受診患者の初期診療やER受診後、数日の通院で完結できそうな患者の通院加療、また、救急部入院患者の診療等を行います。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスから、救急室における初期診療全般に関して、救急部・総合診療部医師の監督、指導のもとに実践します。

[麻酔科蘇生科研修]

手術室で、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を習得します。麻酔科蘇生科で8週間をこえて研修しても、救急部門の研修としては4週間しか認められませんが、最低義務週数を獲得すること以上のメリットがあります。他施設では見学が主体の研修であることがありますが、当院では、実際に麻酔しますから、電子カルテの操作に習熟し、入院患者の病態を短時間で的確に把握できるようになり、主訴から検査、診断、手術方法の決定までの過程をコンパクトに経験でき、一流の手術手技を特等席から直視下で解説付きで見学することができ、その場でマクロの病理標本を確認できます。短期間でたくさんの症例を全科にわたって経験できます。麻酔に限らず、全科にわたって、疑問・質問に直ぐに答えが得られる環境です。手術室では、歩いて入室した人が、10分後には意識不明で呼吸停止して横たわっています。毎日こういった状況に対処しますので、臨床現場の医師としてあれこれ自信がつきます。

(c) 地域医療研修

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限のものを身につけます。

(d) 外科研修

外科1（消化器外科、乳腺・内分泌外科）、外科2（心臓血管外科、呼吸器外科）から1科を選択します。

外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリ・ケアが修得できるよう研修します。

(e) 小児科研修

小児医療を適切に行なうために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

- ・小児および小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。
- ・健診などを通して発育、発達についての知識を深める。
- ・年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
- ・母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。

(f) 産婦人科研修

一般患者全般を診るために必要な産婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。

(g) 精神科研修

精神症状を有する患者に対して、心理-社会的側面を重視した基本的な診断および治療ができ、必要な場合には適宜精神科への診察依頼ができる技術を修得します。具体的には、主要な精神疾患・精神状態像、特に研修医が将来、各科の日常診療で遭遇する機会の多いものの診療を、指導医とともに経験します。

(h) 一般外来研修

症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患患者の継続診療を含む研修をします。

(i) 病院で定めた必修科目：麻酔科蘇生科

手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得します。

(j) 選択科目研修

選択科目研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、臨床研修の到達目標を考慮しつつ、将来のキャリアに円滑につながるよう以下の科目からいくつかの科目を自由に選択します。

内科（血液・腫瘍、感染症・膠原病、脳神経、消化器、内分泌・代謝、呼吸器、腎臓、循環器）、外科（消化器、乳腺・内分泌、心臓血管、呼吸器）、泌尿器科、皮膚科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科、産科婦人科、神経科精神科、脳神経外科、麻酔科蘇生科、放射線科、救急部・総合診療部、病理診断科/病理部、緩和ケア科、地域医療（２年目のみ）、地域保健（２年目のみ）

(2) 臨床研修Bプログラム

臨床研修Bプログラム(定員2名): 1年目を大学病院で、2年目を協力病院で研修

(例)

1 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	内 科						救急部門			麻酔 科	必修科目		
	2 4 週						1 2 週			4 週	1 2 週		

2 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	たすきがけ病院の研修プログラムによる(なお、地域医療4週以上は必修科目)												

- ・ Bプログラムの研修はAプログラムに準じて、たすきがけ病院と調整を取りながら行います。

(3) 臨床研修Cプログラム

臨床研修Cプログラム(定員11名): 1年目を協力病院で、2年目を大学病院で研修

(例)

1 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	たすきがけ病院の研修プログラムによる												

2 年 目	1～ 4 週	5～ 8 週	9～ 12 週	13～ 16 週	17～ 20 週	21～ 24 週	25～ 28 週	29～ 32 週	33～ 36 週	37～ 40 週	41～ 44 週	45～ 48 週	49～ 52 週
	地域 医療	麻酔 科	必修科目又は選択科目										
	4 週	4 週	4 4 週										

- ・ Cプログラムの研修はAプログラムに準じて、たすきがけ病院と調整を取りながら行います。
- ・ 2年目の大学病院での研修は将来専門としたい診療科を中心に関連の診療科での研修も可能です。

(4) 小児科重点プログラム

小児科重点プログラム（定員2名）：2年間大学病院を中心に研修

(例)

1 年 目	1～ 4週	5～ 8週	9～ 12週	13～ 16週	17～ 20週	21～ 24週	25～ 28週	29～ 32週	33～ 36週	37～ 40週	41～ 44週	45～ 48週	49～ 52週
	内 科						小児 科	救急部門			外科	産婦 人科	精神 科
	2 4 週						4 週	1 2 週			4 週	4 週	4 週

2 年 目	1～ 4週	5～ 8週	9～ 12週	13～ 16週	17～ 20週	21～ 24週	25～ 28週	29～ 32週	33～ 36週	37～ 40週	41～ 44週	45～ 48週	49～ 52週
	小児 科	麻酔 科	産婦 人科	地域 医療	一般 外来	選択科目				小児科			
	4 週	4 週	4 週	4 週	4 週	1 2 週				2 0 週（内8週はNICU）			

(5) 産婦人科重点プログラム

産婦人科重点プログラム（定員2名）：2年間大学病院を中心に研修

(例)

1 年 目	1～ 4週	5～ 8週	9～ 12週	13～ 16週	17～ 20週	21～ 24週	25～ 28週	29～ 32週	33～ 36週	37～ 40週	41～ 44週	45～ 48週	49～ 52週
	内 科						救急部門			必修科目			
	2 4 週						1 2 週			1 2 週			

2 年 目	1～ 4週	5～ 8週	9～ 12週	13～ 16週	17～ 20週	21～ 24週	25～ 28週	29～ 32週	33～ 36週	37～ 40週	41～ 44週	45～ 48週	49～ 52週
	一般 外来	地域 医療	麻酔 科	産婦 人科	選択科目				産婦人科				
	4 週	4 週	4 週	4 週	1 2 週				2 4 週				

6. 研修指導体制

研修の責任者は福井大学医学部附属病院長であり、病院長のもとに研修管理委員会を置き研修の計画から修了認定までを管理します。また、研修期間中プログラム及び研修医の指導・管理を担当するプログラム責任者、研修医を直接指導し評価を行う研修指導医を置きます。研修指導は原則としてマンツーマン方式で行います。

(1) 研修管理委員会

研修管理委員会は、病院長、臨床教育研修センター運営委員会委員、プログラム責任者、協力型臨床研修病院、地域保健・医療を含めた臨床研修協力施設の研修実施責任者、事務部門責任者及び外部委員で組織し、臨床研修プログラム及び研修医の管理、評価等を行います。

(2) プログラム責任者

プログラム責任者は、研修プログラム全体を統括し、全研修期間を通して研修医の指導・管理を行います。また、各診療科及び各臨床研修協力病院に1名の副プログラム責任者（又は研修実施責任者）を置き、当該診療科等の研修期間中プログラムを管理し研修医の指導・管理を行います。

(3) 研修指導医

指導医は、研修プログラムに基づき直接研修医を指導し、研修医に対する評価を行います。指導医は臨床経験7年以上で、プライマリーケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者としてします。なお、協力型臨床研修病院や臨床研修施設の指導医はその病院又は施設の長に委ねます。

(4) 臨床研修の評価と修了認定

研修医は、常時臨床研修医手帳を携帯し、研修内容の記録をします。また、オンライン臨床研修評価システム（PG-EPOC）により、各科（部）・施設での研修了後原則1か月以内に自己評価等を行い、指導医等の評価を受けます。

- ① 指導医は担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握し、診療科のプログラム責任者に報告します。
- ② 各診療科の責任者は、当該研修期間が終了したとき、研修医の目標到達状況をプログラム責任者を通じて研修管理委員会に報告します。
- ③ 研修管理委員会は、研修終了に際し、PG-EPOC、勤務記録、行動目標や経験目標の到達度などで総合的な評価を行います。病院長は、研修管理委員会が臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証を交付します。

また、臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で研修医に通知します。さらに、事情により研修を中断する者がある場合は、中断したときまでの臨床研修の内容及び研修医の評価等を記載した臨床研修中断証を交付します。

7. 研修医の募集および選考方法

研修プログラムを全国に公開しマッチング方式により全国から募集します。応募の窓口は臨床教育研修センターです。

1) 募集人員

臨床研修Aプログラム（定員22名）：2年間を大学病院で研修

〃 Bプログラム（定員2名）：1年目を大学病院で、2年目を協力病院で研修

〃 Cプログラム（定員11名）：1年目を協力病院で、2年目を大学病院で研修

小児科重点プログラム（定員2名）：2年間、大学病院を中心に研修

産婦人科重点プログラム（定員2名）：2年間、大学病院を中心に研修

上記プログラムを一括して募集します。応募者は1回の試験ですべてのプログラムを受験したことになりますので、マッチング登録の際には、すべてのプログラムに優先順位をつけて登録してください。

2) 応募資格

- ① 医師免許取得者又は第120回医師国家試験を受験する者
- ② 医師臨床研修マッチング協議会の研修医マッチングに参加する者

3) 応募方法、応募期間、出願書類、選考方法・期日など詳細は募集要項で発表します。

(ホームページ <http://sotsugo.hosp.u-fukui.ac.jp/>)

4) 選考結果通知

医師臨床研修マッチングの結果により決定し、速やかに本人に通知します。

8. 処遇

職 名	医員（研修医）
身 分	非常勤（契約職員）
給 与	月額約385,000円 基本給，臨床研修手当，超過勤務手当（約45時間の場合） ※超過勤務手当は救急部時間外研修を含む
賞 与	1年目 年間213,000円，2年目 年間328,000円
手 当	通勤手当（本学規程により支給）
休 暇	採用から6ヶ月継続勤務後に10日の年次有給休暇を付与 夏季休暇等6日
宿 舎	借上げ宿舎あり（家賃月額約20,000円）
勤 務 時 間	8:30～17:15（休憩60分）
時間外勤務	有り
当 直	救急部時間外研修：4～5回／月 当直時間：準夜 17:30～23:30 日勤 8:30～17:15（休日のみ）
研 修 医 室	個人用机あり、共用スペースあり
社会保険等	文部科学省共済組合（短期給付）、厚生年金、労災保険、雇用保険適用
医師賠償責任保険	福井大学病院において加入
定期健康診断	年1回
学会等への参加	発表者の学会旅費支給（国内のみ）
そ の 他	自己研鑽のための旅費・参加費・図書購入費等（年間15万円）

* たすきがけの臨床研修協力病院における処遇は、当該病院の定めるところによります。

* 医師法に基づき、研修中のアルバイトは禁止しています。

9. その他

（1）研修実施責任者

総合診療部長 林 寛之

（2）問い合わせ先

福井大学医学部附属病院臨床教育研修センター

〒910-1193

福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

担当：福井大学病院部総務課研修担当

(TEL. 0776-61-8600 FAX. 0776-61-8224)

(E-Mail : sotsugo@med.u-fukui.ac.jp)